

KEYWARE TIMES

株主通信 Vol.15
第49期 第2四半期(累計)事業報告
2013年4月1日~2013年9月30日

➤こんなところに、キーウェア

現場のニーズに合わせてきめ細かにカスタマイズ。
柔軟な対応で、企業の業務効率化を実現

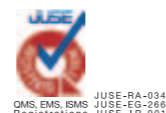
➤特集

さらなる成長に向けた取り組み



KEYWARE
SOLUTIONS

キーウェアソリューションズ株式会社
〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18
管理本部 経営企画室 広報IR部
<http://www.keyware.co.jp>



※掲載されている会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

KEYWARE
SOLUTIONS

キーウェアソリューションズ株式会社
東証第二部 3799

IT can create it.

こんなところに、キーウェア

現場のニーズに合わせてきめ細かにカスタマイズ。 柔軟な対応で、企業の業務効率化を実現

個人のライフスタイルは、衣・食・住に関する生活様式・行動様式だけでなく、人生観・価値観・習慣などを含め多様化した時代となり、ニーズや期待に合わせて「カスタマイズ」できる商品やサービスが求められています。情報システムにおいても、それぞれの現場ごとに独自のニーズがあるため、お客様の悩みはそれぞれです。また、最適なシステムを導入しても、その後の社会の変化や事業の発展に伴い、システムの変更が必要になる場合もあります。キーウェアはこうした変化に柔軟に対応し、さまざまな企業の業務効率化を支援しています。

埼玉トヨペット様も、当社が1980年代後半からシステムの開発・運用をサポートしている企業の一つです。同社は半世紀以上にわたって自動車販売に携わり、現在はトヨタ車、レクサス車、フォルクス

ワーゲン車の新車販売をはじめ、中古車販売、各種保険取り扱い、携帯電話ショップの運営など、自動車販売会社という枠を超えた幅広い事業を展開しています。また、CSR活動にも力を入れ、「地域・環境」「人との絆」を大切にする企業として、地域の障がい者や高齢者等の交流支援、緑化推進運動などに取り組んでいます。

同社では、トヨタ自動車が開発した販売店業務システム「ai21」が基幹システムとして稼働しており、車両業務、サービス業務、経理業務などを一元管理できるようになっています。しかし、事業の多角化や扱う車種の増加とともに、このシステムだけでは処理できない業務が出てきました。例えば、新車購入の受注から納車までの間には、新車配送予約、登録ナンバー申請の関連書類作成、オプションの



取り付け作業等の発注・進捗管理、支店への配送といった社内外における多種多様な手続きが必要です。より迅速かつ効率的に事業を展開していくためには、こうした業務をすべてカバーするきめ細かいシステムが不可欠でした。

そこでキーウェアは、現場のニーズを一つ一つすくい上げつつ、「ai21」システムの現状を把握。その上で、不足している機能の実装や、重要な機能の強化を実現する新たなシステムの開発を行いました。業務によっては「ai21」システムを併用するため、システム同士のスムーズな連携も課題でしたが、当社が蓄積してきた豊富な知識と経験を生かしてこれをクリアしました。

新たなシステムを導入した結果、新車の販売から納車までの一連の流れにおける業務処理が飛躍的

に向上し、業務の大幅な効率化を実現しました。こうした成果を高く評価していただき、その後はマイグレーション^{*}なども任せていただいております。キーウェアは、これからも埼玉トヨペット様のベストソリューションパートナーとして同社のニーズに柔軟に対応し、常に最適なシステムを提供すべくさらなる努力を続けてまいります。

※マイグレーション：システムやデータの移行・変換作業





売上拡大、収益性向上により前年同期比で増収増益。
通期計画達成に向け、堅調に推移しております。

代表取締役社長 三 田 昌 弘

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
IT市場は、クラウドコンピューティングやスマートデバイスの急速な普及、ビッグデータの活用やM2M (Machine to Machine)^{※1}による企業のビジネス変化などを受けて、大きな変革の時を迎えております。
当社グループはこうしたIT市場の構造の変化を柔軟に捉え、2013年3月期を初年度とする3か年中期経営計画「3 Frontiers!」^{※2}のもと、事業領域の拡大や新たなサービスの創出に積極的に取り組んでおります。

第2四半期（累計）の業績

当社グループの2014年3月期第2四半期（累計）の業績は、売上高7,973百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益173百万円（前期同期比122.6%増）となり、前年同期比で増収増益となりました。主な増収要因は、五大顧客^{※3}からの受注が増加したことによるものです。また、主な増益要因は、一

昨年度から継続的に取り組んできた事業構造改革によって収益性を向上させたことによるものです。

取り組みと成果

当社グループは3か年中期経営計画、「3 Frontiers!」を戦略の柱に3つのビジネススタイル（パートナー型ビジネス^{※4}、プライム型ビジネス^{※5}、サービス提供型ビジネス^{※6}）で事業を推進しております。長年にわたるパートナー型ビジネスの中で培った開発ノウハウやプロダクトをアセット化し、それをプライム型ビジネスに活用してお客様の事業運営を包括的に支援するとともに、既存の領域にとられない新たなITサービスの創出に取り組んでおります。

当第2四半期（累計）の成果につきましては、五大顧客との関係強化による社会インフラ系の受注が堅調であったことに加え、注力している流通・サービス業分野の受注が順調に推移いたしました。さらに

当社グループの監視／制御パッケージ「Open Monitor」の販売も好調に推移いたしました。

通期へ向けて

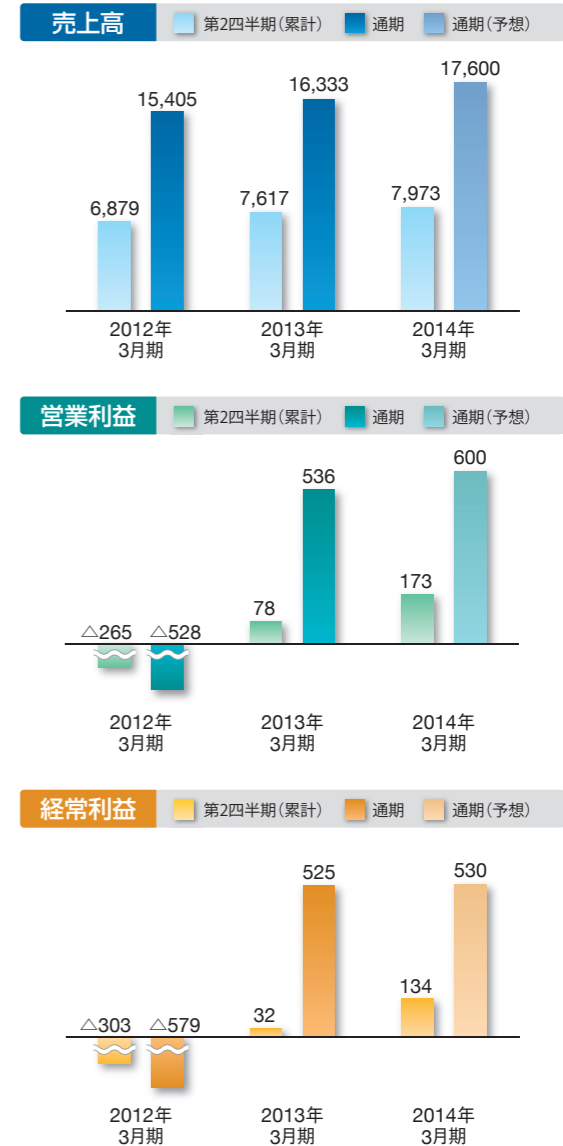
IT市場における事業環境は、国内景気対策による浮揚期待は高く、IT投資意欲について回復基調にあります。そのような環境の中、当社グループは引き続き、継続的かつ安定的に高収益を実現する本格的な成長ステージへ向けた事業基盤の構築に取り組み、通期の業績予想達成に向け、事業を推進してまいります。

今後につきましては、政府の積極的なIT戦略推進による公共・公益分野でのIT投資需要の拡大に加え、2020年の東京オリンピック開催の決定による好影響が期待されます。当社グループはこのようなニーズをいち早く捉え、確実にキャッチアップし、さらに受注拡大へつなげてまいります。

当社グループはこれからも、社会やステークホルダーの皆さまから信頼されるとともに、成長を期待される企業となるべく、さらなる飛躍に向けて努力を続けてまいります。株主・投資家の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ※1 M2M：機械と機械が通信ネットワークを介して互いに情報をやりとりすることにより、自律的に高度な制御や動作を行うこと
- ※2 3 Frontiers!：「地理的・空間的なフロンティア」「事業上のフロンティア」「考え方や発想のフロンティア」
- ※3 五大顧客：当社グループの取引の約6割を占める特定顧客（NECおよび関係会社、NTT関係会社、JRおよび関係会社、日本HP、三菱商事および関係会社）
- ※4 パートナー型ビジネス：社会インフラを支える企業からの受託開発を中心としたビジネス
- ※5 プライム型ビジネス：主に企業・官公庁を対象としたビジネス
- ※6 サービス提供型ビジネス：利用者の多様なニーズに応えるサービスを提供するビジネス

連結業績ハイライト（単位：百万円、単位未満切り捨て）



特集 さらなる成長に向けた取り組み

ICT（情報通信技術）の進歩を背景とした社会の期待やニーズに応えるべく、競争力のある企業へ向けた取り組みを続けています。

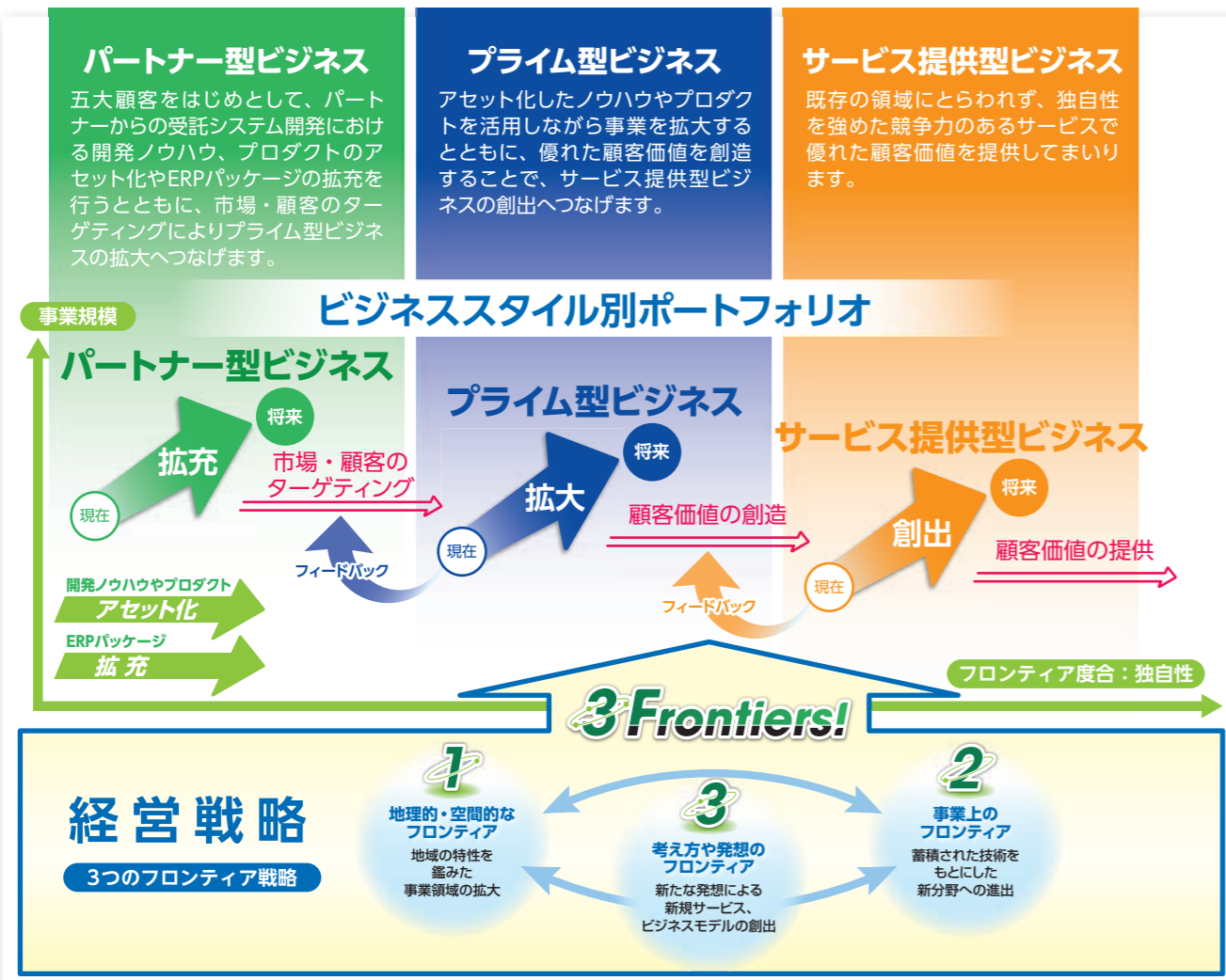
事業内容 | 情報システムの構築・サービスの提供を通じ、豊かで安心・安全・便利な社会の発展に貢献しています。

-  **1 宇宙で** 安全
衛星追跡管制・衛星関連データ処理
宇宙ステーション運用管制
-  **2 空港で** 安全
航空路管制システム
-  **3 ホームで** 安全
駅のホーム用車両接近状況表示、
行先案内表示、緊急案内表示
-  **4 駅の改札で** 便利
駅改札におけるICカード利用など
-  **5 高速道路で** 安全 便利
交通情報ソリューション
-  **6 電話(固定・携帯)で** 便利
一般電話（NTT）、携帯電話の通信情報、
パケット通信情報、顧客管理、料金管理など
-  **7 農場で** 安心 便利
センサーネットワークと連動した
スマートアグリ



-  **8 工場で** 便利
ERPソリューション
-  **9 流通で** 便利
商社向け在庫管理・入出庫管理システム
-  **10 銀行で** 便利
金融ソリューション
-  **11 病院で** 安心
オーダーリングシステム、電子カルテ、
臨床検査システム、院内感染監視システム
-  **12 オフィスで** 安心 便利
経営とITの統合コンサルティング
情報セキュリティ
非接触型指ハイブリッドソリューション
-  **13 街中で** 便利
野球・ゴルフ・大相撲などの
スポーツ情報のニュース配信システム
-  **14 モバイルで** 安心 便利
スマートフォン向けアプリなど
-  **15 自宅で** 便利
ECサイト/在宅就業支援、テレワーク

「3 Frontiers!」を戦略の柱に独自性を高め、3つのビジネススタイルを有機的につなげることで、新規顧客開拓と事業領域の拡大をはかります。



Topics 指ハイブリッド認証応用製品「指ハイブリッド認証モジュール」を販売開始

近年、情報漏洩防止、不正アクセスなどを防ぐための本人確認の有効な手段として、生体認証を用いる動きが企業の入退室管理をはじめ、金融機関や地方公共団体等のさまざまな場所で進んでいます。当社では、生体認証の各種機能を兼ね備えたNEC製の指紋・指静脈による「非接触型指ハイブリッドスキャナ」と当社が独自に設計・製造した組み込み用途向けCPUボード「ライトニングアイ」を組み合わせてモジュール化しました。



Topics HP製シンクライアント向け仮想USBコントロールシステム「HTVUCS」販売開始

HTVUCS (エイチティーボックス) は、システム管理者の一括管理によるアクセス設定で、HP (ヒューレット・パカード) 製シンクライアントにおけるUSBデバイスの利用をきめ細かく制御できる製品です。世界No.1の販売実績があり、信頼性の高いHP製のエンベデッドタイプシンクライアント端末において、最適なパフォーマンスが得られるように開発・調整しております。



Topics 「神奈川県ひとり親家庭等在宅就業支援事業 第2期」を受託

神奈川県では、ひとり親家庭の自立支援に向けたさまざまな取り組みを行っています。当社では、ひとり親家庭の家庭と仕事の両立をはかりやすい働き方であるITを使った在宅就業を支援するため、在宅によるICT就業を希望される県内在住のひとり親家庭の母親・父親・寡婦等に対して必要となるICT知識と技術の習得訓練をシンクライアントソリューション (GO-Global) やクラウドサービスを利用し実施しています。



Topics 電子錠システム CLIQ を販売開始

CLIQ (クリック) は、従来の普通の鍵 (メカニカルキー) と形状が似ていますが、キーに内蔵されたメモリーに記録された暗号化情報を利用して、ソフトウェアで扉の施解錠をコントロールするロック・アクセスコントロール (出入管理システム) です。既存の錠前を専用シリンダーに取り替えるだけで、導入・操作・管理が簡単でありながら、極めて精度の高い情報保護・セキュリティシステムを実現することが可能となります。



流動資産 A

仕掛品の増加はありましたが、売掛金の回収により、前期末比520百万円減少の5,263百万円となりました。

固定資産 B

有形固定資産およびのれんの償却による減少はありましたが、当社基幹システムの刷新に伴うソフトウェアの増加により、前期末比75百万円増加の4,166百万円となりました。

流動負債 C

短期借入金の減少等により、前期末比616百万円減少の2,375百万円となりました。

固定負債 D

長期借入れによる調達および従業員持株会信託型ESOPの導入による借入金の増加により、前期末比307百万円増加の1,416百万円となりました。

純資産 E

四半期純利益の計上はありましたが、ESOP信託が保有する株式を自己株式に計上したことにより、前期末比136百万円減少の5,638百万円(自己資本比率59.8%)となりました。

四半期連結貸借対照表

| | 前 期 2013年3月31日現在 | 当第2四半期 2013年9月30日現在 |
|----------|---------------------|------------------------|
| (資産の部) | | |
| A 流動資産 | 5,784 | 5,263 |
| B 固定資産 | 4,091 | 4,166 |
| 有形固定資産 | 154 | 145 |
| 無形固定資産 | 836 | 907 |
| 投資その他の資産 | 3,100 | 3,114 |
| 資産合計 | 9,875 | 9,430 |

| | 前 期 2013年3月31日現在 | 当第2四半期 2013年9月30日現在 |
|-------------|---------------------|------------------------|
| (負債の部) | | |
| C 流動負債 | 2,992 | 2,375 |
| D 固定負債 | 1,108 | 1,416 |
| 負債合計 | 4,100 | 3,792 |
| (純資産の部) | | |
| E 株主資本 | 5,757 | 5,613 |
| その他の包括利益累計額 | 16 | 25 |
| E 純資産合計 | 5,774 | 5,638 |
| 負債純資産合計 | 9,875 | 9,430 |

四半期連結損益計算書

| | 前第2四半期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで | 当第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで |
|------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| F 売上高 | 7,617 | 7,973 |
| 売上原価 | 6,274 | 6,545 |
| G 売上総利益 | 1,343 | 1,427 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,264 | 1,253 |
| H 営業利益 | 78 | 173 |
| 経常利益 | 32 | 134 |
| 四半期純利益 | 23 | 127 |

I 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

| | 前第2四半期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで | 当第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで |
|-------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | △404 | 630 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △0 | △178 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 249 | △483 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | △155 | △31 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 965 | 638 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | 810 | 607 |

売上高 F

国内景気が、景気対策関連事業の執行に伴い、公共投資が本格化し上昇傾向を見せている中、当社グループにおいても、システム開発事業および総合サービス事業ともに好調に推移したことにより売上高は、前年同期比355百万円増加の7,973百万円となりました。

売上総利益 G

売上高の増加およびプロジェクト管理の徹底により、前年同期比83百万円増加の1,427百万円となりました。

営業利益 H

売上総利益の増加および継続して支出の抑制に努めたことにより、前年同期比95百万円増加の173百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー I

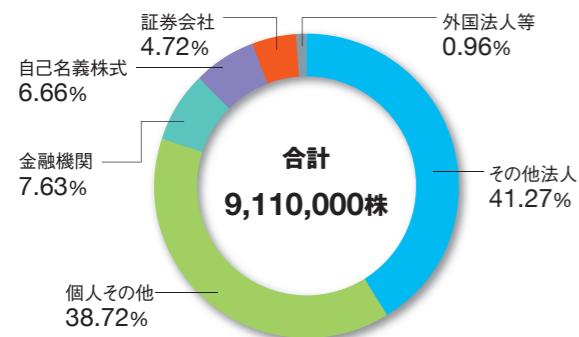
税金等調整前四半期純利益の増加および売上債権の回収による減少等により営業活動において630百万円のキャッシュ・インフローとなりましたが、システム刷新に伴う設備投資により投資活動において178百万円のキャッシュ・アウトフローならびに短期借入金の減少、ESOP信託における自己株式の取得により財務活動において483百万円のキャッシュ・アウトフローとなったことにより、現金及び現金同等物の四半期末残高は31百万円減少の607百万円となりました。

発行可能株式総数 36,440,000株
 発行済株式総数 9,110,000株
 株主数 4,723名

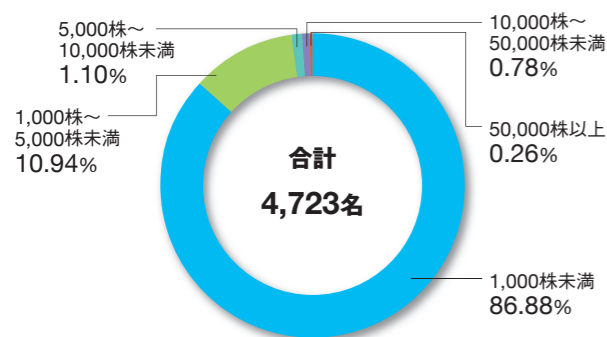
■ 主要法人株主

日本電気株式会社
 株式会社ジェイアール東日本情報システム
 日本ビューレット・バックカード株式会社
 株式会社三井住友銀行
 住友生命保険相互会社

■ 所有者別状況



■ 所有株数別状況



株主メモ

| | |
|---------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日 |
| 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| | 〒168-0063 |
| 【郵便物送付先】 | 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 【電話照会先】 | (フリーダイヤル)0120-782-031 |
| 【インターネット ホームページ URL】 | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |
| 公告掲載方法 | 当社ホームページにおける電子公告 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第二部 |

株式に関する手続き

住所変更等のお届出および照会について
 証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、お取引の証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

未払配当金のお支払いについて
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行にお申出ください。

配当金計算書について
 配当金お支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。お受取りになられた「支払通知書」は、配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。なお、株式数比例配分方式によりお受取りの株主様の「支払通知書」につきましては、お取引の証券会社へご確認ください。

商号 キーウェアソリューションズ株式会社

住所 〒156-8588
 東京都世田谷区上北沢5-37-18

代表者 代表取締役社長 三田 昌弘

創立 1965年5月

資本金 17億37百万円

売上 163億33百万円(2013年3月期・連結)

従業員数 1,087名(2013年3月31日現在・連結)

取得資格
 品質マネジメントシステム登録事業者
 プライバシーマーク使用許諾事業者
 情報セキュリティマネジメントシステム登録事業者
 環境マネジメントシステム登録事業者

役員

| | | |
|---------|--------|------------|
| 代表取締役社長 | 三田 昌弘 | みた まさひろ |
| 取締役 | 村上 優 | むらかみ まさる |
| | 矢光 重敏 | やこう しげとし |
| | 島田 孝雄 | しまだ たかお |
| | 川向 一史 | かわむかい かずふみ |
| | 田中 耕二 | たなか こうじ |
| | 高田 和宏 | たかだ かずひろ |
| | 平野 文康 | ひらの ふみやす |
| 監査役 | 山田 和男 | やまだ かずお |
| | 宇津木 淳克 | うつぎ あつよし |
| | 伊藤 淳 | いとう あつし |
| | 瀧田 博 | たきた ひろし |

※取締役 高田 和宏および平野 文康は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

※監査役 伊藤 淳および瀧田 博は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

※監査役 瀧田 博は、東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員です。

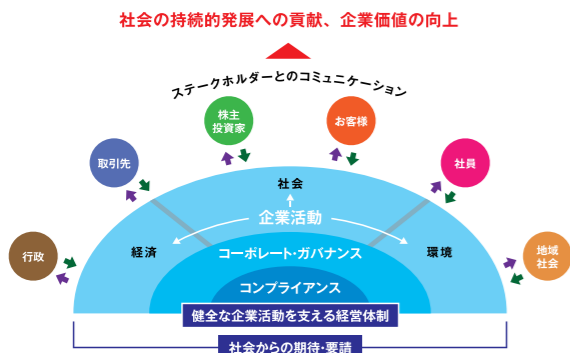


本社(賃貸)



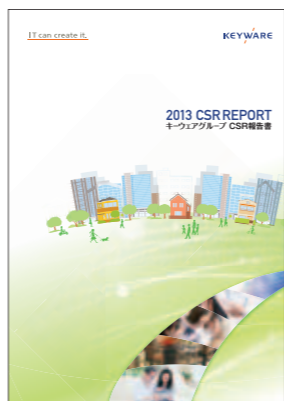
社会・環境活動(CSR)への取り組み

キーウェアグループでは、社会・環境活動への取り組みを企業の重要な社会的責任と認識しております。地域社会の皆さまと友好的なコミュニケーションを取りながら、豊かな社会と環境の実現に努めてまいります。



「CSR報告書2013」を発行

キーウェアグループのCSR活動の内容と結果について、ステークホルダーの皆さまに、適切にわかりやすくご報告することを目的として「CSR報告書」を発行しております。



キーウェアグループのCSR活動の取り組みにつきましては、ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.keyware.co.jp/csr/index.html>

東日本大震災 復興支援活動

東日本大震災からの復興を願い、東北6県の祭りが集う「東北六魂祭 2013」が2013年6月に福島県福島市で開催されました。当社は、「東北六魂祭」の開催主旨に深く共感し、東日本大震災復興支援への取り組みの一環として、3回目となる今年もベネフィット・ワンふれあいコーナーに出展いたしました。当社のブースでは、東北支店の社員も参加し、iPadを活用した子ども向け抽選会や

フェイスペイントのイベントを行い、大変多くの方々に足をお運びいただきました。今後も企業活動を通じ、復興のお役に立てるよう取り組んでまいります。



インターネットIR情報

「個人投資家の皆さまへ」

より深くキーウェアグループをご理解いただくために個人投資家の皆さまへ向けた情報を発信しております。



<http://www.keyware.co.jp/ir/kojin/index.html>

「決算説明(動画配信)」

決算説明の動画を資料とともに配信しております。業績報告や今後の戦略などについてわかりやすくご説明しております。



<http://www.keyware.co.jp/ir/index.html>

知って得する! ICT時代の活用術①

「自分の日常を記録する『ライフログ』」

自分の日々の生活(Life)に関する事柄をデジタルデータとして記録(Log)することを「ライフログ」といいます。例えば毎日の食事や歩数、運動量、体重などを記録しておけば、健康管理に役立てることができます。また、旅行やイベントなどの写真を記録して、「思い出」を保管することもできます。最近ではスマートフォンを使ったSNSの普及により、楽しむ方たちが増えてきました。

ライフログを実践する上で大切なのは、こまめに記録し蓄積すること。記録は蓄積されてこそ有効活用

できるのです。過去の記録を振り返ると自分をより客観的に見つめられるので、自己を再発見したり、改善すべき点や成長のきっかけが見つかる、といった声もあります。活用の仕方次第でさまざまなメリットが生まれそうですね。



当社では、スマートフォンを活用して日々の健康情報を登録・管理できる健康管理サポートサービス「健康からだコンパス LifeRoute(ライフルート)」をサービス提供中。

